

評価事例 I

単 元 名	第5学年 Unit1 Hello, friends.
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、名前や好きなものについて、考えや気持ちなどを伝え合うことができる。 「話すこと [やり取り] イ」
言 語 活 動	新しく同じ学級になった友達とお互いのことをよく知るために、名前や好きなものなどを伝え合う。自分の名前や好きなものなどが書かれた名刺カードを作成し、そのカードをお互いに見せながら自己紹介のやり取りを行う。

評価の進め方

全員で二重の円を作って並び、内側の児童と外側の児童がペアになり自己紹介を行う。やり取りが終わったら、内側の児童が時計回りに横に移動し、新たにペアになった児童とやり取りを行う。教員とALTは、やり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 色やスポーツ、食べ物などを表す語句や How do you spell your name? I'm ~. I like ~. What ~ do you like?の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 名前や好きなものについて、上記の語句や表現等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、名前や好きなものについて、考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、名前や好きなものについて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、更に詳しく尋ねたり答えたりしている。
B：おおむね満足できる状況	名前のつづりや好きなものを尋ねたり答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>S1: I'm Hanako. S2: How do you spell your name? S1: H-A-N-A-K-O. Hanako. S2: What sport do you like? S1: I like baseball. S2: <u>Do you like Rakuten?</u>① S1: <u>Yes, I do.</u> <u>I like Tanaka Masahiro.</u>② Nice to meet you. S2: Nice to meet you, too.</p> <p>理由 S2は、名前のつづりや好きなスポーツを尋ねているだけでなく、①Do you like Rakuten?と相手の答えに応じて更に詳しく尋ねている。 S1は、名前のつづりや好きなスポーツを答えているだけでなく、①の質問に対し②Yes, I do. I like Tanaka Masahiro.と更に詳しく答えている。 S2が野球のことと関連して、Do you play baseball? と尋ねたり、S1が自分のことと関連して、Do you like baseball? と尋ねたりすることも考えられる。</p>	<p>S1: I'm Hanako. S2: How do you spell your name? S1: H-A-N-A-K-O. Hanako. S2: What sport do you like? S1: I like baseball. Nice to meet you. S2: Nice to meet you, too.</p> <p>理由 S2は、名前のつづりや好きなスポーツを尋ねている。 S1は、名前のつづりや好きなスポーツを答えている。</p>	<p>S1: I'm Hanako. S2: ... T: 名前のつづりを尋ねてみましょう。 S2: How ...? T: How do you spell your name? S1: H-A-N-A-K-O. Hanako. S2: What sport do you like? S1: ... T: 好きなスポーツは何ですか。 S1: I...</p> <p>理由 S2は、好きなスポーツを尋ねているが、名前のつづりを尋ねていない。そのため、相手のことをよく知ることができない。 S1は、S2の質問に対して、名前のつづりは答えているが、好きなスポーツを答えていない。そのため、自分のことが十分に伝わらない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

・名刺カードを作成して自己紹介を行うため、児童の名前に出てくる活字体から指導することで、文字の読み書きに慣れ親しませる。

評価事例 2

単 元 名	第5学年 Unit2 When is your birthday?
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、誕生日や欲しいものについて、考えや気持ちなどを伝え合うことができる。 「話すこと [やり取り] イ」
言 語 活 動	「相手が喜ぶように、欲しいものをバースデーカードに描いて贈ろう」という課題を設定し、学級の友達とバースデーカードを贈り合う。互いのことをよく知るために、誕生日や欲しいものなどを尋ね合い、尋ね合ったことを基に、バースデーカードを作成する。

評価の進め方

児童はペアを作り、ペアで誕生日や欲しいものについてのやり取りを行う。教員とALTは、やり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 月や日付、身の回りのものなどを表す語句や When is your birthday? My birthday is ~. What do you want for your birthday? I want ~. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 誕生日や欲しいものについて、上記の語句や表現等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、誕生日や欲しいものについて、考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、誕生日や欲しいものについて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、更に詳しく尋ねたり答えたりしている。
B：おおむね満足できる状況	誕生日や欲しいものを尋ねたり答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>S1: When is your birthday? S2: My birthday is May 1st. S1: What do you want for your birthday? S2: I want a pencil case. S1: <u>What color do you like?</u>① S2: <u>I like red.</u>②</p>	<p>S1: When is your birthday? S2: My birthday is May 1st. S1: What do you want for your birthday? S2: I want a pencil case.</p>	<p>S1: When is your birthday? S2: My birthday is May 1st. S1: ... T: 欲しいものを尋ねてみましょう。 S1: What do you ...? T: What do you want for your birthday? S2: I want ...</p>
<p>理由 S1は、誕生日や欲しいものを尋ねているだけでなく、①What color do you like?と、相手の答えに応じて更に詳しく尋ねている。 S2は、S1の質問に対して、誕生日や欲しいものを答えているだけでなく、①の質問に対し、②I like red.と答えている。 S1が相手の答えに応じて、What character do you like?と尋ねたり、S2が I want a pencil case. I have many pencils.と自分のことを更に詳しく伝えたりすることも考えられる。</p>	<p>理由 S1は、誕生日や欲しいものを尋ねている。 S2は、S1の質問に対して、誕生日や欲しいものを答えている。</p>	<p>理由 S1は、誕生日を尋ねているが、欲しいものを尋ねていない。そのため、相手のことをよく知ることができない。 S2は、S1の質問に対して、誕生日は答えているが、欲しいものを答えていない。そのため、自分のことが十分に伝わらない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

- ・「相手が喜ぶように、欲しいものをバースデーカードに描いて贈ろう」と課題を設定することで、児童に目的意識を持たせる。
- ・多くの友達とやり取りができるように、バースデーカードを複数枚作成する。

評価事例 3

単元名	第5学年 Unit3 What do you want to study?
単元の目標	自分のことをよく知ってもらうために、学びたい教科やなりたい職業について、話すことができる。 「話すこと [発表] ア」
言語活動	もし休校になったらどのように1日の学習を進めるか考え、オリジナルの時間割を作成する。自分の考えた時間割について知ってもらうために、学びたい教科やなりたい職業などをグループの友達に発表する。

評価の進め方

児童を3～5人のグループに分け、グループ内で自分の考えた時間割について発表する。教員とALTは、発表の様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 曜日や教科、職業などを表す語句や What do you want to study? I want to study ～. What do you want to be? I want to be ～.の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 学びたい教科やなりたい職業について、上記の語句や表現等を用いて、話す技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらうために、学びたい教科やなりたい職業について、話している。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらうために、学びたい教科やなりたい職業について、話そうとしている。</p>



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	オリジナルの時間割や学びたい教科、なりたい職業を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>This is my timetable. (自分の時間割を示して) Japanese, math, music, P.E., English and science. (音楽を指差しながら) I want to study music. I want to be a singer. I like music very much.① Thank you.</p>	<p>This is my timetable. (自分の時間割を示して) Japanese, math, music, P.E., English and science. (音楽を指差しながら) I want to study music. I want to be a singer. Thank you.</p>	<p>S: This is my timetable. (自分の時間割を示して) Japanese, math, music, P.E., English and science. (音楽を指差しながら) I want to study music. ... T: なりたい職業は何ですか S: I want to...</p>
<p>理由 オリジナルの時間割や学びたい教科、なりたい職業を話しているだけでなく、①I like music very much.と情報を付け加えて、更に詳しく伝わるように話している。 話題と関連して、Do you like music? などと聞き手に問い掛けることも考えられる。</p>	<p>理由 オリジナルの時間割や学びたい教科、なりたい職業を話している。</p>	<p>理由 オリジナルの時間割や学びたい教科は話しているが、なりたい職業を話していない。そのため、自分の考えた時間割について十分に伝わらない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

- ・オリジナルの時間割を考える際に、イメージマップやXチャートなどを活用したワークシートを使って、学びたい教科やなりたい職業などに関連付けて考える場面を設ける。
- ・ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使って話せば良いかを考えさせる。

評価事例 4

単 元 名	第5学年 Unit4 He can bake bread well.
単 元 の 目 標	自分や第三者のことをよく知ってもらうために、その人との関係やできることについて、伝えようとする内容を整理した上で話すことができる。 「話すこと [発表] イ」
言 語 活 動	学級の友達と「Who is this?クイズ」を出し合う。紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分との関係やできることなど伝えたいことを整理し、3つのヒントを話してクイズを出す。答え合わせて名前を発表する。

評価の進め方

児童を2つのグループに分ける。グループごとに集まり、1人ずつ前に出て発表する。教員とALTで担当するグループを決め、発表の様子を見ながら評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 自分との関係や職業、動作などを表す語句や Who is ~? This is ~. Can you ~? I/He/She can/can't ~. の表現について理解している。 <技能> 自分と第三者の関係やできることについて、上記の語句や表現等を用いて、話す技能を身に付けている。	自分や第三者のことをよく知ってもらうために、その人との関係やできることについて、伝えようとする内容を整理した上で話している。	自分や第三者のことをよく知ってもらうために、その人との関係やできることについて、伝えようとする内容を整理した上で話そうとしている。



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を使って、更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	紹介したい人について、3つのヒント（自分との関係やその人ができることなど）を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例（S = 児童, T = 教員）

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
She is my friend. <u>She is my classmate.</u> ① She can play badminton well. She can cook well. <u>She can make cookies.</u> ② Who is this? (他の児童が名前を答える) Yes. That's right! This is Sakura.	She is my friend. She can play badminton well. She can cook well. Who is this? (他の児童が名前を答える) Yes. That's right! This is Sakura.	S: She is my friend. She can play badminton well. Who is this? T: もう1つヒントはありますか。 S: ...
理由 紹介したい人について、3つのヒントを話しているだけでなく、①She is my classmate.と情報を付け加えたり、②She can make cookies.と具体的に話したりして、更に詳しく伝わるように話している。 紹介したい人のことが伝わるように、She is tall.や This is an anime character.などの表現を用いてクイズを出すことも考えられる。	理由 紹介したい人について、自分との関係や、その人の特徴が分かるようにできることを2つ挙げ、合わせて3つのヒントを話している。	理由 紹介したい人について、2つしかヒントを話していないため、その人の特徴が十分に伝わらない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照 </div>

指導のポイント

- ・「Who is this?クイズ」を出すためには、紹介したい人を学級の友達や先生など、児童が知っている人から選ぶと良い。また、帯活動で「Who is this?クイズ」を取り入れ、児童に発表のイメージを持たせることも考えられる。
- ・紹介したい人について、自分との関係やその人ができることなどを、イメージマップやXチャートなどを活用したワークシートに書かせ、伝えたいことを整理する場面を設ける。
- ・ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使って話せば良いかを考えさせる。

評価事例 5

単 元 名	第5学年 Unit5 Where is the post office?
単 元 の 目 標	自分たちの夢の町について知ってもらったり、相手の夢の町について知ったりするために、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりして伝え合うことができる。 「話すこと [やり取り] ア」
言 語 活 動	一人一人が欲しい施設を考え、グループで1枚の「夢の町マップ」を作る。互いのグループの夢の町について知るために、1対1でやり取りを行う。欲しい施設は何か、その場所はどこかを尋ねたり、答えたりする。やり取りをする際は、施設の場所を見て分からないようにするため、「夢の町マップ」ではなく、白地図を使って案内する。

評価の進め方

児童を4～5人のグループに分け、グループ同士でそれぞれのグループが作った「夢の町マップ」を案内する。道案内をする際は、違うグループの児童がペアになり、1対1でやり取りを行う。教員とALTはやり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 建物や位置などを表す語句や Where is ~? Go straight for ~ block(s). Turn left/right. It's by/in/on/under/~. You can see it on your left/right. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 夢の町について、上記の語句や表現等を用いて、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>自分たちの夢の町について知ってもらったり、相手の夢の町について知ったりするために、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりして伝え合っている。</p>	<p>自分たちの夢の町について知ってもらったり、相手の夢の町について知ったりするために、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりして伝え合おうとしている。</p>

思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、場面に応じたやり取りをしている。
B：おおむね満足できる状況	相手の欲しい施設への行き方を尋ね、相手の説明を聞いて理解したり、自分の欲しい施設への行き方を説明して答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>S1: What do you want for your town? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight for three blocks. Turn left. You can see it on your right. OK?① S1: <u>Three blocks and turn left.</u>② Here? S2: Yes, that's right. S1: <u>Do you like books?</u>③ S2: Yes, I do. I like manga.④</p>	<p>S1: What do you want for your town? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight for three blocks. Turn left. You can see it on your right. S1: Here? S2: Yes, that's right.</p>	<p>ア S1: What do you want? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight for three blocks. Turn left. You can see it on your right. S1: まっすぐ行って、右?左? イ S1: What do you want? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight...and ...</p>
<p>理由 S1は、相手の欲しい施設への行き方を尋ね、相手の説明を聞いてその場所を理解しているだけでなく、②Three blocks and turn left.と相手の言葉を繰り返したり、③Do you like books?と尋ねたりして、場面に応じたやり取りをしている。 S2は、自分の欲しい施設への行き方を答えているだけでなく、①OK?と相手の理解を確かめたり、④Yes, I do. I like manga.と答えたりして、場面に応じたやり取りをしている。</p>	<p>理由 S1は、相手の欲しい施設への行き方を尋ね、相手の説明を聞いてその場所を理解している。 S2は、自分の欲しい施設への行き方を説明して答えている。</p>	<p>理由 ア S1は、相手の説明を聞いても行き方が分からないため、相手の欲しい施設にたどり着けない。 イ S2は、自分の欲しい施設への行き方を説明できないため、道案内することができない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

・グループごとに自分たちが欲しい施設を並べた「夢の町マップ」を作成することで、学級の児童の間にインフォメーション・ギャップ (情報の差) を作り、道案内することへの意欲を高める。

評価事例 6

単 元 名	第5学年 Unit 6 What would you like?
単 元 の 目 標	自分の考えをよく知ってもらったり、相手の考えをよく知ったりするために、丁寧に料理を注文したり、注文に応じたりして伝え合うことができる。 「話すこと [やり取り] ア」
言 語 活 動	フードコートで、ALTから1000円以内でおすすめのランチを注文してほしいと頼まれるという状況を設定する。ALTのために選んだメニューを店員役の児童と伝え合うために、丁寧に料理を注文したり、注文に応じたりする。料理のカードはワークシートに貼り、ランチセットにしてALTに渡す。

評価の進め方

児童を8つのグループに分け、お店を4カ所作っておく。グループごとに、店員役とお客さん役を担当し、注文したり、注文に応じたりするやり取りを行う。やり取りを行う際は1対1で対話させる。例えば、グループ全員が店員役を終えたらお客さん役を行うというように、役割を交代する。教員とALTは、やり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 食べ物や飲み物、値段などを表す語句や What would you like? I'd like ~. How much is it? It's ~ yen. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 自分や相手の欲しい料理について、上記の語句や表現等を用いて、料理を注文したり、それに応じたりする技能を身に付けている。</p>	<p>自分の考えをよく知ってもらったり、相手の考えをよく知ったりするために、丁寧に料理を注文したり、注文に応じたりして伝え合っている。</p>	<p>自分の考えをよく知ってもらったり、相手の考えをよく知ったりするために、丁寧に料理を注文したり、注文に応じたりして伝え合おうとしている。</p>



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、場面に応じたやり取りをしている。
B：おおむね満足できる状況	欲しい料理について、丁寧に注文したり、それに応じたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>S1: What would you like? S2: I'd like a sandwich and coffee. S1: <u>A sandwich and coffee?</u>① S2: Yes. <u>I'd like hot coffee.</u>② S1: (絵カードを渡して) Here you are. S2: How much is it? S1: <u>A sandwich is 180 yen. Coffee is 150 yen.</u>③ 330 yen, please. S2: OK.</p>	<p>S1: What would you like? S2: I'd like a sandwich and coffee. S1: (絵カードを渡して) Here you are. S2: How much is it? S1: 330 yen, please. S2: OK.</p>	<p>S1: What would you like? S2: Sandwich. Coffee. How much is it? S1: ... T: 値段はいくらですか。 S1: ... T: 330 yen, please. S2: OK.</p>
<p>理由 S1は、丁寧にやり取りをしているだけでなく、①A sandwich and hot coffee?と注文を繰り返したり、③A sandwich is 180 yen. Coffee is 150 yen.とそれぞれの金額を伝えたりして、場面に応じたやり取りをしている。 S2は、丁寧に欲しい料理を注文しているだけでなく、②I'd like hot coffee.と欲しいものを具体的に伝えて、場面に応じたやり取りをしている。</p>	<p>理由 S1は、丁寧に欲しい料理を尋ね、注文に応じて絵カードを渡したり、合計金額を答えたりしている。 S2は、丁寧に欲しい料理を伝えたり、値段を尋ねたりして注文している。 ピクチャーディクショナリーなどを使用し、メニュー表を見ながら合計金額を答えるが、合計金額を答える際は、電卓などを使用してよい。</p>	<p>理由 S1は、丁寧に欲しい料理を尋ねているが、値段を答えていないので、注文に応じることができていない。 S2は、語句だけで会話しているので、丁寧に注文しているとは言えない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

- ・ALTの好きな食べ物や嫌いな食べ物などについてインタビューする時間を設ける。
- ・教室をフードコートのようにするなど場の設定を工夫することで、児童の意欲を高める。

評価事例 7

単 元 名	第5学年 Unit7 Welcome to Japan.
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、好きな季節とその理由について、その場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができる。 「話すこと[やり取り]ウ」
言 語 活 動	外国の人に日本のおすすめの季節を紹介するポスターをグループごとに作る。互いの好きな季節を知るために、好きな季節やその季節が好きな理由などについて、絵カードを作成し、その絵カードを見せながら質問したり、質問に答えたりする。やり取りを基に、どのように絵カードを配置するか相談し、模造紙に貼ってポスターにする。

評価の進め方

児童を4つのグループに分け、グループ内で対面に座った児童同士でやり取りを行う。やり取りが終わったら、時計回りに席を1つ移動し、新たに対面で座った児童同士でやり取りを行う。教員とALTは、やり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 季節や日本の遊び、年中行事などを表す語句や Why do you like ~? We have ~. What do you do ~? I usually ~. You can ~. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 好きな季節とその理由について、上記の語句や表現等を用いて、その場で質問したり質問に答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、好きな季節とその理由について、その場で質問したり質問に答えたりして、伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、好きな季節とその理由について、その場で質問したり質問に答えたりして、伝え合おうとしている。</p>

思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を使い、対話を続けるために、更に詳しく質問したり、質問に答えたりしている。
B：おおむね満足できる状況	好きな季節について、相手の答えを聞き取り、その季節が好きな理由やその季節に行くことをその場で質問したり、質問に答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>S1: I like spring. S2: Why do you like spring? S1: We have hanami in spring. S2: What do you do on hanami? S1: I see cherry blossoms and I eat hanami-bento. S2: <u>Do you like cherry blossoms?</u>① S1: Yes, I do. I like spring, too.②</p>	<p>S1: I like spring. S2: Why do you like spring? S1: We have hanami in spring. S2: What do you do on hanami? S1: I see cherry blossoms and I eat hanami-bento.</p>	<p>S1: I like spring. S2: ... T: 好きな理由を尋ねてみましょう。 S2: ...? T: Why do you like spring? S1: We have hanami in spring. S2: What do you do on hanami? S1: ...</p>
<p>理由 S2は、S1の好きな季節を聞き取り、その季節が好きな理由やその季節に行くことだけでなく、① Do you like cherry blossoms? と相手の答えに応じて、更に詳しく質問している。 S1は、S2の質問に応じて、その季節を好きな理由やその季節に行くことを答えているだけでなく、①の質問に対し、② Yes, I do. I like spring, too. と更に詳しく答えている。</p>	<p>理由 S2は、S1の好きな季節を聞き取り、その季節が好きな理由やその季節に行くことを質問している。 S1は、S2の質問に応じて、その季節を好きな理由やその季節に行くことを答えている。</p>	<p>理由 S2は、S1の質問を聞き取って、その季節が好きな理由を質問していないため、相手のことをよく知ることができない。 S1は、S2の質問に応じて、その季節に行くことを答えていないため、自分のことが十分に伝わらない。</p>

「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照

指導のポイント

- 好きな季節やその季節に行くことなどをイメージマップやXチャートなどを活用したワークシートに書かせ、伝えたいことを整理する場面を設ける。
- ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使って話せば良いかを考えさせる。
- タブレット端末や学校図書館等を活用し、季節ごとの行事について、調べ学習をする時間を設ける。

評価事例 8

単 元 名	第5学年 Unit8 Who is your hero?
単 元 の 目 標	自分の気持ちを知ってもらうために、自分のあこがれの人について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話すことができる。 「話すこと [発表] ウ」
言 語 活 動	学級の友達に、自分のあこがれの人を発表する。自分がその人にあこがれている気持ちを知ってもらうために、あこがれの人について、得意なことや普段の様子など伝えたいことを整理して話す。

評価の進め方

発表の時間を2時間設け、学級全員の前で1人ずつ発表させる。教員とALTは、発表の様子を見ながら評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 性格や頻度、動作などを表す語句や Who is your hero? My hero is ~. Why is ~ your hero? He/She is good at ~. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 自分のあこがれの人について、上記の語句や表現等を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。</p>	<p>自分の気持ちを知ってもらうために、自分のあこがれの人について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。</p>	<p>自分の気持ちを知ってもらうために、自分のあこがれの人について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。</p>



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちが更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	自分のあこがれの人について、その人の立場（職業や自分との関係）や得意なこと、普段の様子を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例（S = 児童， T = 教員）

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>My hero is our teacher. He is good at playing sports. <u>He can play baseball and soccer.①</u> He is strong. <u>I want to play baseball well, too.②</u></p>	<p>My hero is our teacher. He is good at playing sports. He is strong.</p>	<p>S: My hero is our teacher. He is good at playing sports. T: 普段はどんな様子ですか。 S: ...</p>
<p>理由 自分のあこがれの人について、その人の立場や特徴、得意なことを話しているだけではなく、①He can play baseball and soccer.と具体的に話したり、②I want to play baseball well, too.と自分の気持ちを付け加えたりして、更に詳しく伝わるように話している。</p>	<p>理由 自分のあこがれの人について、自分との関係や得意なこと、普段の様子を話している。</p>	<p>理由 自分のあこがれの人について、自分との関係や得意なことは話しているが、普段の様子を話していない。そのため、あこがれている気持ちが十分に伝わらない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

- ・児童があこがれそうな人や、教員があこがれている人を何人か例に挙げて示し、児童に発表のイメージを持たせる。
- ・あこがれの人について、その人の得意なことや普段の様子などを、イメージマップやXチャートなどを用いたワークシートに書かせ、伝えたいことを整理する場面を設ける。
- ・ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使って話せば良いかを考えさせる。

評価事例 9

単 元 名	第6学年 Unit 1 This is me!
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらうために、名前や好きなもの、誕生日について、伝えようとする内容を整理した上で話すことができる。 「話すこと [発表] イ」
言 語 活 動	新しく同じ学級になった友達に自分のことを伝えるために、自己紹介カードを作成し、名前や好きなもの、誕生日など伝えたいことを整理して学級の友達に発表する。

評価の進め方

児童は3～5人のグループに分かれ、グループ内で自己紹介を行う。教員とALTは、発表の様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 月や日付、身の回りのものなどを表す語句や I'm ~. I'm from ~. I like ~. My birthday is ~. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 名前や好きなもの、誕生日について、上記の語句や表現等を用いて、話す技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらうために、名前や好きなもの、誕生日について、伝えようとする内容を整理した上で話している。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらうために、名前や好きなもの、誕生日について、伝えようとする内容を整理した上で話そうとしている。</p>



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	名前や出身地、好きなものや誕生日を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>I'm Hiromi. I'm from Natori. I like cats. <u>I have three cats.</u>① <u>Do you like cats?</u>② My birthday is September 28th.</p>	<p>I'm Hiromi. I'm from Natori. I like cats. My birthday is September 28th.</p>	<p>S: I'm Hiromi. I'm from Natori. My birthday is September 28th. ... T: 好きなものはありますか。 S: I like ...</p>
<p>理由 名前や出身地、好きなものや誕生日を話しているだけでなく、①I have three cats.と情報を付け加えたり、②Do you like cats? と聞き手に問い掛けたりして、更に詳しく伝わるように話している。</p>	<p>理由 名前や出身地、好きなものや誕生日を話している。</p>	<p>理由 名前や出身地、誕生日は話しているが、好きなものを話していない。そのため、自分のことが十分に伝わらない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

・伝える相手を新しく赴任した先生などと設定することで、児童に相手意識を持たせる。
・自己紹介カードをポスター形式にして教室に掲示し、学習参観で保護者などに見てもらえるようにすることで、児童の意欲を高めることも考えられる。

評価事例 10

単 元 名	第6学年 Unit2 How is your school life?
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらうために、普段の生活の様子や大切にしているものについて、話すことができる。 「話すこと [発表] ア」
言 語 活 動	動画を撮影して、他校のALTに自己紹介をする。自分のことをよく知ってもらうために、住んでいる地域や普段の生活の様子、大切にしているものなどを発表する。他校のALTを直接招いたり、オンラインで中継をしたりすることも考えられる。

評価の進め方

児童は3～5人のグループに分かれ、グループ内で1人ずつ発表させ、その様子を動画で撮影する。教員とALTは、発表の様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 動作や頻度、身の回りのものなどを表す語句や I live in ～. I go to ～. I usually ～. My treasure is ～. の表現について理解している。 <技能> 普段の生活の様子や大切にしているものについて、上記の語句や表現等を用いて、話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、普段の生活の様子や大切にしているものについて、話している。	自分のことをよく知ってもらうために、普段の生活の様子や大切にしているものについて、話そうとしている。



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	住んでいる地域や通っている学校、普段することや大切にしているものを話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
I live in Natori in Japan. I go to Mitazono Elementary School in Natori city.① I usually watch anime on weekends. My treasure is this key chain. I like this anime character.②	I live in Natori in Japan. I go to Mitazono Elementary School. I usually watch anime on weekends. My treasure is this key chain.	S: I live in Naroti in Japan. I go to Mitazono Elementary School. I usually watch anime on weekends. ... T: 大切にしているものは何ですか。 S: My ...
理由 住んでいる地域や通っている学校、普段することや大切にしているものを話しているだけでなく、①in Natori city と情報を付け加えたり、②I like this anime character. と自分の気持ちを加えたりして、更に詳しく伝わるように話している。 Do you like anime? などと聞き手に呼び掛けることも考えられる。	理由 住んでいる地域や通っている学校、普段することや大切にしているものを話している。	理由 住んでいる地域や通っている学校、普段することは話しているが、大切にしているものを話していない。そのため、自分のことが十分に伝わらない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照 </div>

指導のポイント

・伝える相手を他校のALTや他の学級の児童、他校の小学生などと設定することで、児童に相手意識を持たせる。
 ・小小連携の例として、撮影した動画を見合ったり、オンラインで紹介し合ったりするなど、他校の小学校と交流することも考えられる。

評価事例 11

単 元 名	第6学年 Unit3 Let's go to Italy.
単 元 の 目 標	自分が調べたことをよく知ってもらうために、おすすめの国について、伝えようとする内容を整理した上で話すことができる。 「話すこと〔発表〕イ」
言 語 活 動	グループごとに旅行代理店を作り、担当する国を1つ決めて、学級の友達にその国の魅力を紹介する。おすすめの国を知ってもらうために、その国について、観光できる場所や食べられる物など伝えたいことを整理して発表する。発表する際は、各旅行代理店から1人ずつ集まってグループを作り、様々な国を紹介し合う。

評価の進め方

児童は、各旅行代理店から1人ずつ集まって4人のグループを作り、グループ内でそれぞれのおすすめする国を発表する。教員とALTは、発表の様子を見ながら評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 国名や食べ物、様子などを表す語句や You can ～. It's ～. の表現について理解している。 〈技能〉 おすすめの国について、上記の語句や表現等を用いて、話す技能を身に付けている。	自分が調べたことをよく知ってもらうために、おすすめの国について、伝えようとする内容を整理した上で話している。	自分が調べたことをよく知ってもらうために、おすすめの国について、伝えようとする内容を整理した上で話そうとしている。



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、更に詳しく伝えるように話している。
B：おおむね満足できる状況	おすすめの国について、観光できる場所や食べられる物、感想を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例（S＝児童，T＝教員）

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
China is a nice country. You can see the Great Wall of China. It's very long.① You can eat ramen. I like miso flavor.② It's delicious.	China is a nice country. You can see the Great Wall of China. You can eat ramen. It's delicious.	S: China is a nice country. You can see the Great Wall of China. You can eat ramen. ... T: 感想はありますか？ S: It ...
理由 おすすめの国について、観光できる場所や食べられる物、感想を話しているだけでなく、①It's very long.と情報を付け加えたり、②I like miso flavor.と自分の気持ちを付け加えたりして、更に詳しく伝えるように話している。	理由 おすすめの国について、観光できる場所や食べられる物、感想を話している。	理由 おすすめの国について、観光できる場所や食べられる物は話しているが、感想を話していない。そのため、おすすめする理由が十分に伝わらない。

「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照

指導のポイント

- ・グループごとに旅行代理店を作り、おすすめの国を発表することにする。発表に向けて、グループ内で発表の仕方を練習したり、ペアでおすすめの国を紹介したりするなど、スモールステップで活動を組み立てる。
- ・社会科の地図帳やタブレット端末、学校図書館等を活用し、おすすめの国について、調べ学習をする時間を設ける。

評価事例 12

単 元 名	第6学年 Unit4 Summer Vacations in the World
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらうために、夏休みの思い出について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。 「話すこと [発表] ウ」
言 語 活 動	どのような夏休みを過ごしたのか知ってもらうために、学級の友達に、夏休みの思い出を発表する。夏休みの出来事から1つを絞り、その様子を描いた絵カードを示しながら、行った場所やしたこと、感想など伝えたいことを整理して話す。

評価の進め方

学級の児童を2つのグループに分ける。グループごとに集まり、1人ずつ前に出て発表する。教員とALTで担当するグループを決め、発表の様子を見ながら評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 場所や動作、食べ物、様子などを表す語句や I went ~. I enjoyed ~. I ate ~. It was ~. の表現について理解している。 <技能> 夏休みの思い出について、上記の語句や表現等を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、夏休みの思い出について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話している。	自分のことをよく知ってもらうために、夏休みの思い出について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちに更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	夏休みの思い出について、行った場所やしたこと（楽しんだこと、食べた物など）、感想を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例（S = 児童， T = 教員）

A となる例	B となる例	C となる例
I went to Hanayama. I enjoyed hiking. <u>Do you like hiking?</u> ① I ate a rice ball. <u>I like rice balls.</u> ② It was fun.	I went to Hanayama. I enjoyed hiking. I ate a rice ball. It was fun.	S: I went to Hanayama. I enjoyed hiking. I ate a rice ball. ... T: 感想はありますか？ S: It was ...
理由 夏休みの思い出について、行った場所やしたこと（楽しんだこと、食べた物）、感想を話しているだけでなく、①Do you like hiking?と相手の理解を確かめる呼び掛けを行ったり、②I like a rice ball.と情報を付け足したりして、自分の考えや気持ちに更に詳しく伝わるように話している。 既習の語句や表現の活用としては、一文を付け足すだけでなく、by car や with my family のように文の後ろに語句で付け足すことも考えられる。	理由 夏休みの思い出について、行った場所やしたこと（楽しんだこと、食べた物）、感想を話している。したことについては、楽しんだことや食べた物以外にも、見た物や買った物、作った物など、その場所でしたことの中から選択して話すことが考えられる。	理由 夏休みの思い出について、行った場所やしたこと（楽しんだこと、食べた物）は話しているが、感想を話していない。そのため、どのような夏休みを過ごしたのかが十分に伝わらない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照 </div>

指導のポイント

- ・一番伝えたい夏休みの思い出について、行った場所やしたこと、感想などを、イメージマップやクラゲチャートなどを活用したワークシートに書かせ、伝えたいことを整理する場面を設ける。
- ・ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使って話せば良いかを考えさせる。

評価事例 13

単 元 名	第6学年 Unit5 We all live on the Earth.
単 元 の 目 標	自分が調べたことをよく知ってもらったり、相手が調べたことをよく知ったりするために、食物連鎖について、身近で簡単な事柄を伝え合うことができる。 「話すこと [やり取り] イ」
言 語 活 動	理科の授業で学んだことをALTに伝えるという場面を設定する。食物連鎖について互いが学習したことを知るために、生き物について、その生息地や食べている物などを伝え合う。3人のグループを作り、食物連鎖のつながりが分かるように担当する生き物を分担する。

評価の進め方

児童は3人のグループを作り、グループ同士でやり取りを行う。発表する場所を数カ所設け、学級の半分のグループは発表する場所を固定し、その他のグループは発表する場所を1つずつ移動する。教員とALTは、やり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 生き物、生息地などを表す語句や Where do ~ live? ~ live in ~. What do ~ eat? ~ eat ~. の表現について理解している。 <技能> 食物連鎖について、上記の語句や表現等を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	自分が調べたことをよく知ってもらったり、相手が調べたことをよく知ったりするために、食物連鎖について、身近で簡単な事柄を伝え合っている。	自分が調べたことをよく知ってもらったり、相手が調べたことをよく知ったりするために、食物連鎖について、身近で簡単な事柄を伝え合おうとしている。

思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を使い、更に詳しく尋ねたり答えたりしている。
B：おおむね満足できる状況	生き物について、その生息地や食べている物を尋ねたり答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
S1: This is an owl. S2: Where do owls live? S1: Owls live in the forest. S2: What do owls eat? S1: Owls eat snakes. Owls catch snakes at night.① S2: Owls are strong?② S1: Yes! Owls are strong but cute.	S1: This is a snake. S2: Where do snakes live? S1: Snakes live in the forest. S2: What do snakes eat? S1: Snakes eat frogs.	S1: This is a frog. S2: Where do frogs live? S1: ... T: 生息地はどこですか? S1: Frogs ...? S2: ... T: 食べているものを尋ねてみましょう。 S2: What...? T: What do frogs eat? S1: Frogs eat bugs.
理由 S2は、生き物について、その生息地や食べている物を尋ねているだけでなく、②Owls are strong?と生き物の様子を更に詳しく尋ねている。 S1は、生き物について、その生息地や食べている物を答えているだけでなく、①Owls catch snakes at night.と具体的な情報を付け加え、更に詳しく伝えている。	理由 S2は、生き物について、その生息地や食べている物を尋ねている。 S1は、生き物について、その生息地や食べている物を答えている。	理由 S2は、生き物について、その生息地は尋ねているが、食べている物を尋ねていない。そのため、生き物についてよく知ることができない。 S1は、生き物について、食べている物を答えているが、生息地を答えていない。そのため、生き物について十分に伝わらない。

「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照

指導のポイント

・理科の教科書やタブレット端末、学校図書館等を活用し、食物連鎖について、調べ学習をする時間を設ける。

評価事例 14

単 元 名	第6学年 Unit6 Let's think about our food.
単 元 の 目 標	おすすめのメニューに込めた自分の考えをよく知ってもらったり、相手の考えをよく知ったりするために、食材について、その場で質問したり質問に答えたりして伝え合うことができる。
言 語 活 動	校長先生へのおすすめのメニューをグループごとに考案し、校長先生に食べてほしいおすすめのメニューを学級で選ぶ。グループごとに考えたメニューの良さを伝え合うために、食材について質問したり、質問に答えたりする。3人のグループでメニューを考案し、紹介する食材を分担する。考案したメニューを紹介するポスターを作成し、全てのグループとやり取りを行う。

評価の進め方

児童は3人のグループを作り、全てのグループとやり取りを行う。教員とALTは、やり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 食べ物、メニューなどを表す語句や ~ is from ~. ~ is in the ~ group.の表現について理解している。 〈技能〉 おすすめのメニューについて、上記の語句や表現等を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	おすすめのメニューに込めた自分の考えをよく知ってもらったり、相手の考えをよく知ったりするために、食材について、その場で質問をしたり質問に答えたりして伝え合っている。	おすすめのメニューに込めた自分の考えをよく知ってもらったり、相手の考えをよく知ったりするために、食材について、その場で質問をしたり質問に答えたりして伝え合おうとしている。



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を使って、対話を続けるために、更に詳しく質問したり、質問に答えたりしている。
B：おおむね満足できる状況	おすすめのメニューについて、食材やその産地、栄養素のグループを伝えたり、相手の話を聞き取ってその場で質問したり、質問に答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
S1: This is our beef bowl. (米のイラストを示しながら) The rice is in the yellow group. S2: Where is the rice from? S1: The rice is from Niigata. It is delicious. Do you like beef bowl?① S2: Yes, I do. I like ○○(店名).②	S1: This is our beef bowl. The onion is in the green group. (タマネギのイラストを示しながら) S2: Where is the onion from? S1: The onion is from Hokkaido. It's delicious.	S1: This is our beef bowl. ... (牛肉のイラストを示している。) T: 栄養素のグループは何ですか。 S1: The beef is ... S2: ... T: 牛肉の産地を尋ねてみましょう。 S2: Beef? S1: The beef is from Tome.
理由 S1は、食材や栄養素のグループを伝え、S2の産地を尋ねる質問に答えているだけでなく、①Do you like beef bowl?と更に詳しく質問している。 S2は、食材を聞き取り、その場で産地を質問しているだけでなく、①の質問に応じて、②Yes, I do. I like ○○(店名).と更に詳しく答えている。	理由 S1は、食材や栄養素のグループを伝えるとともに、S2の産地を尋ねる質問に答えている。 S2は、食材を聞き取り、その場で産地を質問している。 メニューの良さについては、It's delicious.や It's healthy.などを付け加えたり、日本語で説明したりすることも考えられる。	理由 S1は、食材や産地を伝えているが、栄養素のグループを伝えていないため、そのメニューを勧める理由が伝わらない。 S2は、イラストを見て食材を推測しているが、食材の産地を尋ねる質問をしていないため、メニューについてよく知ることができない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照 </div>

指導のポイント

- ・校長先生の好きな食べ物や嫌いな食べ物などについてインタビューする時間を設ける。
- ・家庭科の教科書やタブレット端末等を活用し、食材や産地、栄養素のグループについて調べ学習をする時間を設ける。

評価事例 15

単 元 名	第6学年 Unit7 My Best Memory
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらうために、小学校の思い出について、伝えようとする内容を整理した上で話すことができる。 「話すこと [発表] イ」
言 語 活 動	卒業アルバムの内容がALTに伝わるように、小学校の思い出を紹介する動画を学級ごとに作る。小学校生活への思い出を知ってもらうために、一番思い出に残っている行事について、行った場所やしたこと、楽しんだことなど伝えたいことを整理して発表する。

評価の進め方

児童は3人のグループを作り、グループごとに発表している様子を交代で撮影する。教員とALTは、発表している様子や撮影された動画を見て評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 学校行事、動作などを表す語句や My best memory is ～. We went ～. We saw ～. I enjoyed ～. の表現について理解している。 <技能> 小学校の思い出について、上記の語句や表現等を用いて、話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、小学校の思い出について、伝えようとする内容を整理した上で話している。	自分のことをよく知ってもらうために、小学校の思い出について、伝えようとする内容を整理した上で話そうとしている。



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	一番思い出に残っている行事について、行った場所やしたこと、楽しんだことを話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
My best memory is our school trip. We went to Fukushima in September. We saw Tsuruga-jyo castle. It's big!① I enjoyed making Akabeko. I want to go to Fukushima again.②	My best memory is our school trip. We went to Fukushima in September. We saw Tsuruga-jyo castle. I enjoyed making Akabeko.	S: My best memory is our school trip. We went to Fukushima in September. We saw Tsuruga-jyo castle. ... T: 楽しんだことは何ですか? S: I enjoyed ...
理由 一番思い出に残っている行事について、場所やしたこと、楽しんだことを話しているだけでなく、①It's big!と情報を付け加えたり、②I want to go to Fukushima again.と自分の気持ちを加えたりして、更に詳しく伝わるように話している。	理由 一番思い出に残っている行事について、行った場所やしたこと、楽しんだことを話している。	理由 一番思い出に残っている行事について、行った場所やしたことを話しているが、楽しんだことを話していない。そのため、小学校生活への思いが十分に伝わらない。

「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照

指導のポイント

- ・伝える相手をALTやお世話になった人、家族などと設定することで、児童に相手意識を持たせる。
- ・一番思い出に残っている行事について、行事やしたこと、楽しんだことなどを、イメージマップやXチャートなどを活用したワークシートに書かせ、伝えたいことを整理する場面を設ける。
- ・ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使って話せば良いかを考えさせる。

評価事例 16

単 元 名	第6学年 Unit8 My Future, My Dream
単 元 の 目 標	自分のことをよく知ってもらうために、中学校生活に向けての抱負や将来の夢について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。 「話すこと [発表] ウ」
言 語 活 動	中学校の生徒や教員にメッセージ動画を送るという課題を設定する。中学校生活に向けた自分の思いを知ってもらうために、入りたい部活動や楽しみたい行事、得意なことなど伝えたいことを整理して発表する。

評価の進め方

発表の時間を2時間設け、学級全員の前で1人ずつ発表させ、その様子を動画で撮影する。教員とALTは、発表の様子を見ながら評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 部活動や学校行事、職業、動作を表す語句や I want to join ~. I want to enjoy ~. I'm good at ~. I want to be ~. の表現について理解している。 <技能> 中学校生活に向けての抱負や将来の夢について、上記の語句や表現等を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、中学校生活に向けての抱負や将来の夢について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話している。	自分のことをよく知ってもらうために、中学校生活に向けての抱負や将来の夢について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちが更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	入りたい部活動や楽しみたい行事、得意なことや将来の夢を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
I want to join the art club. I want to enjoy school festival. I'm good at drawing. I want to be a manga artist. <u>What manga do you like?①</u> <u>I like Doraemon.②</u>	I want to join the art club. I want to enjoy school festival. I'm good at drawing. I want to be a manga artist.	S: I want to join the art club. I want to enjoy school festival. I'm good at drawing. T: 将来の夢は何ですか? S: I want to ...
理由 入りたい部活動や楽しみたい行事、得意なことや将来の夢を話しているだけでなく、①What manga do you like?と相手に問い掛けたり、②I like Doraemon.と情報を付け加えたりして、自分の考えや気持ちが更に詳しく伝わるように話している。	理由 入りたい部活動や楽しみたい行事、得意なことや将来の夢を話している。	理由 入りたい部活動や楽しみたい行事、得意なことは話しているが、将来の夢を話していない。そのため、中学校生活への思いが十分に伝わらない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照 </div>

指導のポイント

- ・ 伝える相手を中学校の生徒や教員などと設定することで、児童に相手意識を持たせる。
- ・ 中学校生活に向けた抱負について、入りたい部活動や楽しみたい行事などを、イメージマップやXチャートなどを活用したワークシートに書かせ、伝えたいことを整理する場面を設ける。
- ・ ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使えば良いかを考えさせる。
- ・ 小中連携の例として、実際に撮影した動画を見ってもらうなど中学校と交流することも考えられる。